



第145号 令和元年7月22日発行

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>



特集 学校運動部活動と連携するクラブ

- ▶▶▶ 大田原ジョイフルスポーツクラブ
- ▶▶▶ ONO スポーツクラブ

特別企画 熱中症対策に取り組むクラブ

- ▶▶▶ NPO法人伊勢崎西部スポーツクラブ

連載 みんなで盛り上げよう！

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント

- ▶▶▶ i-PLAY TRUE Relay

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

学校運動部活動と連携するクラブ

大田原ジョイフルスポーツクラブ ＜栃木県大田原市＞

中学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

このような中、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、ガイドラインの中で総合型クラブと中学校運動部活動の連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。



1. 熱意のある先生の活動の場を奪わず、求めがあった場合に指導者を派遣
2. 競技経験のない顧問の部活では、あくまでも先生のサポートが主目的
3. 「学校支援地域コーディネーター」が学校側と緊密な連携とコミュニケーション

1 クラブ概要

活動地区である大田原東地区は大田原城の城下町を中心とした地域であり、古くから中心的な役割を担ってきた商工農三拍子そろった恵まれた地域です。また、小学校1校・中学校1校と少なく、地域と学校が連携しやすい地区でもあります。一方でスポーツや文化活動に目を向けてみると、多様化する住民のニーズに応えるための施設が少なく、小中の2カ所の施設および地区公民館を各自治公民館やPTA単位で利用しているのが現状でした。また、地区全体での様々なコミュニケーション不足も懸念され、このままでは「体を動かす」「コミュニケーションの輪を広げる」機会や場が少なくなり、住む人の顔が見える地域社会でなくなる心配もありました。

そのような状況の中、平成24年度に「大田原東地区生涯学習推進協議会」が中心となって「学校支援本部事業」が立ち上がり、それを契機に地域・学校・保護者の距離が一気に縮まり、活発な議論や活動が展開されるようになりました。その活動をとおして「学校内でのスポーツ」や「コミュニティとしてのスポーツ」等の様々な問題点が浮上し、それを解決するために、地区担当のスポーツ推進委員が中心となって平成26年2月に総合型地域スポーツクラブ「大田原ジョイフルスポーツクラブ」を設立しました。

● クラブの理念

「子どもからお年寄りまで参加できるコミュニティの場として、そして、誰でも・いつでも・いつまでも活動できるスポーツや文化活動の場を提供することを目的とする。また、各世代に応じた適切な一貫指導を行える場としての役割も担い、世代・自治公民館・PTA等の枠を超えたコミュニティづくりや個人の健康維持、体力・技術の向上等に貢献し、最終的にスポーツ・文化活動環境の一元化と共に『笑顔あふれるわがまちづくり』を目指す」

このクラブ理念を基礎に、地域住民が主体となって活動しています。また、コミュニティの可能性を追求するという理念に基づいて告知や宣伝は行わず、口コミのみで活動を展開しているのが特徴で、現在では地区外や他市町の会員も多く存在し、年々会員数を伸ばしています。さらに、主体性(イニシアチブ)を保つ観点から、教室やイベント等はすべて地域住民の要望に応じて開催しています。

設立から5年目の平成30年度は会員数が211名で、教室を「チャレンジ」と「テクニカル」併せて12教室、「ひろば」を2つ開催し、延べ3701名が参加してくれました。「チャレンジ」は初心者を取り組みやすい環境づくりやプログラムの提供を目的とし、「テクニカル」は経験者がより深い技術力や戦術等を学びやすいプログラムの提供を目的としています。また、「ひろば」は特定のプログラムを提供せずに参加者が主体的に活動できる場の提供を目的としています。

令和元年度現在は、ソフトテニス(チャレンジとテクニカル)教室、バレーボール教室、ミニバスケットボール(チャレンジとテクニカル)教室、バスケットボール教室、卓球ひろば(ここまでが学校に部活動がある種目)を開催。これ以外にもテニス(チャレンジとテクニカル)教室、バドミントン教室、ソフトバレーボール教室、ヨガ教室、エアロビクス教室、あそびひろば、軽音楽ひろばを要望により開催しています。



2

学校の求めに応じて学校支援事業を展開 小学校の要望にも対応

学校教育と生涯教育との一貫性、そして学校と地域の教育理念の共有が根幹にある学校支援事業は現在、「大田原東地区生涯学習推進協議会」の中で「学校支援部」として展開しています。「大田原東地区生涯学習推進協議会」と密接な関係にある当クラブは「学校支援部」の中に理事6名を派遣し、「学校支援地域コーディネーター」としてクラブマネージャーを含む4名が学校側と緊密な連携をとっています。その中で学校の求めに応じて支援のあり方をその都度構築しています。学校支援事業の対象は小・中学校なので、中学校だけでなく小学校運動部(スポ少)からも求めがあれば応じています。

特に中学校部活動は、先生と生徒のコミュニティーの場であると同時に、学校教育の一環であることが重要であるとの考えから、そして、熱意のある先生の活動の場を奪ってはいけないとの立場から、求めがあった場合に派遣することになっています。

過去には、「第二部活動」「吹奏楽部・サッカー部への綱引き指導」「バレーボール部指導支援」等の活動を中学校で展開してきました。また、「様々な理由により部活動に参加できなくなった生徒」や「不登校ぎみになった生徒」の相談も受け付け、その生徒の教室への受け入れもしています。そして現在では、バスケットボール部の指導支援を週1回程度実施しています。

3

過去には「所属外の部活動体験の推進」など ユニークな取り組みも

● 第二部活動

最初に中学校から「所属している部活動以外の種目を生徒に体験させたい」との学校の求めを「学校支援地域コーディネーター」が聞き入れて、計画がスタートしました。

その後コーディネーターと学校が協議を重ねて、3年生の受験を考慮して5月～10月までの活動とすること、「文化部所属の生徒は運動部」「運動部の生徒は文化部活動」に参加すること、実施日は職員会議等で部活動のない月曜日を隔週で当てることが決まりました。



運動種目はサッカー、ソフトテニス、野球、卓球等既存の部活動種目にバドミントンを加えて行い、それぞれにスタッフを派遣しました。中学校部活動はあくまでも学校教育の一部であり、学校が主体であるべきという立場から、当クラブは「指導補助(支援)」としてスタッフを派遣しています。どんなに丸投げされても、指導補助の形は崩しません。この方法は、「指導者の暴走」や「指導の一貫性」、「顧問の先生が軽んじられる」のを防ぐ狙いもあります。逆に熱意のある先生が時間に余裕があるときに当教室の指導に来てくれた際は、主体はクラブですので、「指導補助」でお願いしています。

その後3年間活動し、生徒や保護者から喜ばれていましたが、授業時数増加に伴う時間的な理由等(校長先生が代わると事業の継続が困難になる側面もあります)により、残念なことに現在は行っていません。

● 「バレーボール部」「バスケットボール部」等の指導補助活動

特に経験の無い先生が顧問に就く場合に、学校からの求めがあります。この場合、顧問の先生から直接コーディネーターに接触があり、その後、顧問の先生とコーディネーターが直接話し合い、現状を共有し、支援の在り方(指導方法、指導プログラムの提供、期間もしくは期日、人数等)などの調整を重ねて実施します。ここで重要視するのが、あくまでも先生のサポートが目的であることです。先生と連携せずに派遣指導者が独り善がりの指導をすれば、生徒たちの混乱を招くだけなので、人選には特に注意して派遣しています。

● 小学校(スポ少)への指導者派遣活動

ある部活動で顧問の先生と保護者の間でトラブルが発生し、間に入った教頭先生がほとんど困って、地元の「スポーツ推進委員」に相談が持ち込まれました。顧問の先生と保護者双方に種目経験がないのが主な理由でしたので、クラブから指導者を派遣することを決定しました。特に平日の活動に支障があるとのことでしたので、人選したのち学校と保護者の了解のもと、2名の指導者を派遣しました。それが慣例化して、現在もそのまま派遣活動を継続しています。

以上の実践例をあげてみましたが、これ以外にも小学校体育授業や小学校クラブ活動事業にも指導者を派遣しています。体育授業は担任の先生からの求めに応じて適宜派遣。クラブ活動ではニュースポーツクラブを委託され、種目の選定からプログラムの提供・実施までを通年行っています。特に気をつけているのは、「手段や目標が目的化しない」ということです。分かりやすく説明しますと、手段や目標はあくまで目的達成のための流動的な方策であって、そこに向かって努力し、検証することは必要ですが、結果にこだわりすぎないことが大切です。



反対に、私たちが常にこだわらなければならないのが、「目的実現のために一歩進んでいるか」という一点です。こうした視点に立った上で、当クラブの理念や生涯教育理念、学校教育理念の実現を目的として、学校の求めに応じていくことが大切と認識しております。

4 コーディネーターの存在が学校側に安心感与える

「学校支援地域コーディネーター」が常に学校に出向きコミュニケーションをとっていることで、「気軽に安心して相談できる」と学校側からも評価をいただいています。派遣する人材も、理念の共有ができる人が原則ですし、初めての方を派遣する場合は顔の知っているコーディネーターが初回に同行することで、先生や生徒からも信頼を得られています。

● 保護者が地域に参画しやすい環境を醸成

一方で学校支援を機に地域でも様々なコミュニケーションがうまくとれるようになり、保護者が地域に参画しやすくなった事例が報告されています。結果、当クラブにも様々な要望が寄せられるようになり、嬉しい悲鳴を上げているところです。

5 50歳代の会員に指導者への道 教室等で次期指導者を育成

学校支援の一番の課題は、人材の確保です。理念を共有できる人材であることはもちろんですが、およそ午後4時から6時という部活動の活動時間も大きく影響しています。時間に余裕がある指導者となると、なかなか見つからずに苦勞している現状があります。当クラブでは、この問題を打開するために、教室等において次の指導者を育成し、良きリーダーシップを発揮できる人材の確保を目指しています。まだ、設立して6年目を迎えたばかりなので、驚く成果は発揮できていませんが、時間をかけてでもしっかりと取り組むべき課題と認識しています。特に50歳代の会員には、間もなく迎えるであろう定年後や、子育て期間終了後での新たな生きがいくりの一環として、積極的に働きかけています。



- 始動した「学校運営委員会」にクラブ理事が参画
→ 学校側の異動で生じる課題解消へ

また、もう一つの課題として先生の異動の問題があります。特に校長先生が代わった時が一番の課題で、それまで有効に機能していた活動が終了の憂き目に遭うことがあります。この問題を打開するには、コーディネーターのコミュニケーション能力に頼るところが大きかったのですが、うまくいかない事例も何度かありました。ところが幸いにも、平成30年度より大田原市で小中一貫教育がスタートし、それに併せて地域が学校の運営に携われる「学校運営委員会」がスタートしました。今年度から本格的に活動するにあたり、当クラブの理事も「学校支援コーディネーター」として学校運営委員会に参画し、4月の委員会において部活動支援の恒久的な在り方について議論し、計画を立てていくことで一致することができました。

- 中学生にも校外ボランティア活動の場を提供へ

さらに、中学校教育では「学校に来て生徒を教えてもらうより、生徒が地域に出て社会活動の中で自己研鑽してほしい」という熱い思いもあります。この課題に対して、当クラブでは高校生以上に限定していたボランティアスタッフの枠を拡充し、中学生もボランティアスタッフとして活動する校外活動の場を提供することにし、併せて活動証明書が発行できるように、現在、理事会において熟議をしています。

(大田原ジョイフルスポーツクラブ 理事長兼クラブマネジャー 菊池貴章)



バレーボール教室



バスケットボール教室



クラブ プロフィール

設立年月日 平成26年2月28日

所在地 栃木県大田原市大田原東地区

運営 会員数211名(平成31年3月末現在)、予算規模115万円(令和元年度)

有給職員 0名

特徴 大田原市大田原東地区(対象エリア人口:約10000人)を中心に、スポーツや文化活動を通して、子どもからお年寄りまで同じ環境下で参加できるコミュニティの場を提供する活動をしています。現在、5歳の幼児から小中学生、高校生、大学生、74歳の社会人まで、各年代が途切れない形で会員が分布しているのが特徴です。

連絡先 〒324-0055 栃木県大田原市新富町1-2-22

電話番号 0287-22-2012 FAX 0287-24-2251

E-Mail ootawara_print@yahoo.co.jp



特集

学校運動部活動と連携するクラブ



ONOスポーツクラブ ＜愛媛県松山市＞



中学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

このような中、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、ガイドラインの中で総合型クラブと中学校運動部活動の連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。



1. 外部指導者として部活動に参加
他県チームとの交流大会開催が指導者・生徒に好評
2. 学校の顧問・教頭先生にクラブ側からコミュニケーション→意思疎通図る
3. 市教委、学校、クラブによる3者協議会を設け、率直に意見交換

1 クラブ概要

平成23年当時、生徒数の減少やそれに伴う教員数および部活動競技数の減少など、中学校運動部活動(以下部活動)を取り巻く環境は決して楽観視できるものではなくなっていました。そこで私たちは地域の「人財」を活用し、松山市小野地区の子供たちのスポーツ環境向上の一助となることを目的に、同年4月に中学校PTA役員、保護者が中心となって「小野スポーツ交流実行委員会」を設立しました。

まず取り組んだことは、部活動への人的支援です。女子バレーボール部、野球部に外部指導者として参加、顧問の指導をサポートしました。続いて、日頃対戦する機会の少ない他県チームとの試合機会を増やすことを目的に、交流大会を開催しました。参加した指導者の皆様からは、県外チームとの交流のきっかけを得ただけでなく、「子供たちのモチベーションアップにもつながった」—など評価の声を得ることができました。

その後、私たちの活動を知った行政からの勧めもあり、平成25年4月、総合型地域スポーツクラブ「ONOスポーツクラブ」として活動することとなりました。「スポーツを通じて子供たちを、地域を笑顔に」を理念に子供から大人まで誰もが参加できるクラブを目指して活動を続けています。

現在の活動は、軟式野球交流大会(中学生大会、U18女子大会)、スポーツ教室(硬式テニス、バスケットボール、軟式野球、スポーツウエルネス吹矢)、各種イベント(どろんこ大会、テニール教室)を開催しています。また外部指導者として小野中学校野球部、女子バレーボール部、男子バスケットボール部に参加しています。

2 生徒・保護者の声を受け硬式テニス教室を開設

非部活動でも学校代表として中体連主催大会に出場し好成績

平成25年、地域で公共のテニスコートを使って練習をしていた小野中学校の生徒、保護者から硬式テニス部を作って欲しいという要望が学校にあがりました。しかし、部の新設は顧問および練習場の確保等の問題で認められませんでした。保護者からは、「週末のコート予約は難しく使用料の負担も大きい、部活動は無理でも学校のコートが空いている時に地域で使用することは出来ないだろうか」、との意見がでました。

そこで、クラブがテニス練習をしている子供たちを受け入れ教室を開設、「総合型地域スポーツクラブ」として学校に使用許可を求めました。その結果、週末の空いている時間帯の使用を認められたばかりか、中体連主催の大会へ学校代表として出場することも認めてくれました。



部活動ではありませんが、学校施設での練習、中体連主催大会への出場は子供たちのモチベーションアップにつながり、成績も女子団体が平成28年度四国総体第3位になるなど、着実にレベルアップしてきました。

3 週末の部活動休養日や平日夜間に各種教室を開催

活動の場を提供することで、保護者・子供たちの不安を緩和

平成30年3月にスポーツ庁から発表された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に対して、保護者・子供たちから「スポーツをやりたい子供たちのことを考えているのか」、「部活よりもクラブチームに入った方がいいんじゃないか」など、活動時間が減らされることへの不安や不満の声が上がりました。

そこで、部活動の外部指導者が中心となり、週末の部活動休養日や平日夜間に「ONOスポーツクラブ」としてバスケットボール教室、野球教室を開催、子供たちに活動の場を提供することにしました。

部活動生徒のクラブ加入は強制でなく任意 テスト期間は学校の方針に歩調合わせる

教室開催にあたり、それぞれの部活動に入っている子供たちには、クラブへの加入は強制でないことを説明、勉強や遊びの時間を持ちたいという子供にも配慮するようにしました。学校とのコミュニケーションについてもクラブ側から取るようにしています。グラウンド・体育館の使用調整や練習内容・日程の調整に関しては部活動の顧問の先生と相談し、学校とクラブ間の調整事項については教頭先生と話し合っています。こうした意思疎通を図った上で、練習日や指導・練習内容の調整など、部活動の指導方針と乖離(かいり)しないよう心がけています。また、テスト期間など学校が部活動を停止している時はクラブも練習を行わないなど、学校の方針にも歩調を合わせるようにしています。

現在、バスケットボールが平日の夜2回と週末の部活動休養日に、野球が週末の部活動休養日に練習しています。部活動休養日における体育館、グラウンドについては、テニスコート同様、使用を認めていただくことができました。



4

スポーツ少年団指導者と地域の有志も教室運営に協力

小野地区ではスポーツ少年団や社会体育など、スポーツを通じて地域の大人が子供を育てようとする「文化・風土」があったこともあり、スポーツ少年団指導者、地域の有志の皆様から「小野の子供たちのためなら」と子供たちへの指導、教室の運営に協力を得ることができました。

クラブに参加した子供の保護者からは「もっと上手になりたい！」という子供たちの気持ちを地域で支えていただいて本当にありがたい」、中学校長からは「部活動がいい成績を収められるのは、社会体育や外部指導者の指導のおかげ」と感謝の言葉をいただいています。

5

クラブ側の役割は事業の調整とフォローが中心

現在、当クラブの取り組みは松山市の「部活動地域連携モデル事業」となっており、今年の1月と6月、松山市教育委員会、小野中学校と当クラブで協議会が開催されました。この協議会を通じて部活動に関する諸課題やガイドラインに関する互いの思い・考え方を率直に話し合うことができています。

昨今、「学校運動部活動」という日本のジュニアスポーツを支えてきた文化が変革期を迎えています。部活動と地域の連携については、いろいろな考え方、やり方があると思いますが、どのような連携の形をとることが「大好きなスポーツをやりたい」という子供たちの思いに応えることになるのか、関係機関とも協議しながら、今後も活動していきたいと思っています。

(ONOスポーツクラブ クラブマネジャー 篠原昌也)



ティーボール教室の様子(高校・中学野球部連携イベント)



クラブ プロフィール

設立年月日 平成25年4月1日

所在地 愛媛県松山市小野地区

運営 会員数101名(令和元年6月1日現在)、予算規模260万円(平成30年度)

有給職員 0名

特徴 平成25年4月設立のONOスポーツクラブは、役員全員がボランティアの任意団体として活動しております。設立当初から小野地区の子供たちのスポーツ環境向上のため、スポーツ少年団、中学校部活動および様々な企業や競技団体との連携を図っております。昨年度からは競技人口拡大のため、愛媛県高等学校野球連盟および小野中学校野球部の協力を得て、未就学児童・小学校低学年を対象に高校球児が指導する「ティーボール教室」も開催しています。

連絡先 〒791-0244 愛媛県松山市水産町907-1 ONOスポーツクラブ連絡事務所

電話番号 090-3787-9469 FAX 089-970-1581

E-Mail fwkv5501@gmail.com

URL <https://ja-jp.facebook.com/ono.sportsclub/>



県外チームとの交流(バスケットボール)



中学校グラウンドでの練習の様子(野球)



中学校テニスコートでの練習の様子(テニス)



中学校体育館での練習の様子(バスケットボール)

特別企画

熱中症対策に取り組むクラブ

NPO法人伊勢崎西部スポーツクラブ

<群馬県伊勢崎市>

総合型クラブの運営においては、安全面に配慮した事業の実施が必要となります。そこで今回は、総合型クラブの活動における熱中症予防について、スポーツ教室・大会等を運営する際に対策を行っているクラブの取り組みを紹介します。

1 クラブ概要

平成18年度、現理事長が伊勢崎市主催の市民会議「スポーツで元気なまちづくり」に参加、「総合型地域スポーツクラブを伊勢崎市に!」と提言し、平成19年度より文部科学省の補助金を活用し任意団体として設立されました。

特定のスポーツ施設ではなく、公園、河川、公共施設等、地域の資源を活用し、誰もが気軽に一人でも取り組める種目を中心に活動しています。個人の体力増進・維持はもとより「スポーツの見えるまちづくり」により、行き交う人々の新たな交流の機会を増やすことや、スポーツ活動による小さな感動の共有による「スポーツで元気なまちづくり」の実現を目指して活動しています。

現在、公園・サイクリングロードにおいてランニング(かけっこ)、ノルディックウォーキング、サイクリングを、公園に隣接する河川においてカヌースラロームを、公共施設においてはダンベル体操、ストレッチ等を定期的実施中です。

また、市内の世界遺産「田島弥平旧宅」や「焼きまんじゅう」「渡し舟」等の地域資源を活用した「マラニック(マラソンとピクニックの造語)大会」、初心者でも楽しめる「カヌースラローム大会」、障害者から健常者・子供から高齢者まで、みんなが車いすに乗って競技を楽しむ「みんなのバリアフリー運動会」等のイベントを実施しています。

2 有数の猛暑地域→熱中症対策 屋外種目でも暑さと向き合って活動

伊勢崎市は毎年夏になると38℃を超える日が数日続くこともある、日本でも有数の暑い地域です。そのような気象条件の地においても、会員サービスの提供として、屋外種目(ランニング、カヌー、ノルディックウォーキング等)も活動を続ける必要があります。



活動開始当初、夏季の午前の活動は早朝開催を検討しましたが、会員の皆さんの生活のリズムを乱すことにも繋がりがねず、さらには猛暑の中でも日常生活を送る必要があるので、正面から暑さに向き合いながら活動することとしました。

3 指導者は熱中症予防を学び、 受講者に随時注意事項を伝達

当クラブの屋内活動種目の会場にはエアコンが設置されていますが、屋外活動種目と同様、指導者による啓蒙(下記7項目)をしています。屋外活動種目の指導者は、日本スポーツ協会公認資格養成講習会における講義を受講するだけでなく、同協会の「熱中症予防ガイドブック」、環境省の「夏季のイベントにおける熱中症予防ガイドライン2018」等を参考にし、熱中症に対する知識(メカニズム・応急処置)を身に付け、自らの基準で行動しないよう心掛けています。

★7つの注意事項★

【参加者に対しては、事前の準備として、以下の7つの注意事項を伝えています】

(梅雨入りの頃から、各定期活動時に指導者から参加者の皆さんに繰り返し口頭で伝えています)

- 梅雨明け前後の気温急上昇を前に疲労を一度抜いておく
- 梅雨明けの気温上昇とともに身体を慣らしながら活動量・強度を上げていく
- 梅雨明け前でも、急な気温上昇の日は、まだ身体が暑さに慣れていないため熱中症のリスクが高いことを認識する
- 梅雨の晴れ間の多少気温が上がった時に、緩やかな運動をすることで、汗をかくことに慣れておく
- 高温に対する耐性は個人差が大きく、また、重篤になる前には必ず自覚症状があるので、各々がその異変を見逃さず、異変を感じたら積極的に活動を休止する
- 活動を休止する際は、周りの人を巻き込み、そのような人を見たら指導者が来るまで積極的に巻き込まれる
- なるべくフィット感の緩い服装、濃い色よりも白っぽい服装を選ぶ

高温時の活動現場においては熱中症対策飲料、氷水、タオル等を準備、休憩頻度・時間を増やすとともに、木陰、川沿い等、なるべく涼を感じる場所で活動し、参加者が自然と暑い中でもそのような場所は涼しいという感覚を身に付け、日常生活においてもその知識が活用できるよう促しています。



4 会員個々が涼をとる工夫 イベント時の救急・救護体制の必要性も共有

日常生活において、涼をとる工夫(窓を開ける、日陰や川沿いを選ぶ)が案外知られていませんでしたが、徐々に各個人が自ら工夫するようになったことが、日々の会話から感じられます。

また、活動時には会員一人ひとりが自分のことのみではなく、お互いに気を配り合う雰囲気醸成されています。

さらには、イベントにおいて、医療機関、消防等と連携した救急対策等を、検討する雰囲気がクラブスタッフ間に高まってきています。過日、群馬県主催の「"ランニングイベントの救護体制"勉強会」に複数のスタッフと共に参加し、熱中症対策に限らず、イベント時に救護体制を検討する必要性を共有しました。

5 活動休止よりも、安全を担保し 猛暑に対応できる体づくりを

ここ伊勢崎市では毎年38℃を超える猛暑日が続きます。その中でも日々生活を送らなければなりませんし、屋外で仕事を続けなければならない方々も居ます。また来年の東京オリンピックも然りで、猛暑の環境においてもハイパフォーマンスを要求されることもあるでしょう。

そのような中、熱中症対策として、単に数値的に一律に活動を休止するのではなく、安全は担保した上で、猛暑にも適応できる身体をつくる必要もあると考えています。

そのような人を育むために、どのような活動プログラムが適切なのか、「暑いからやめる」ではなく、別の方策を考えなければなりません。そのためにも全国のスポーツクラブ、各競技団体の取り組みを共有し、周知していくことも今後必要だと考えています。

(伊勢崎西部スポーツクラブ 理事長 平林知巳)



クラブ プロフィール

設立年月日 平成21年2月28日(任意団体) 平成24年12月20日(法人格取得)

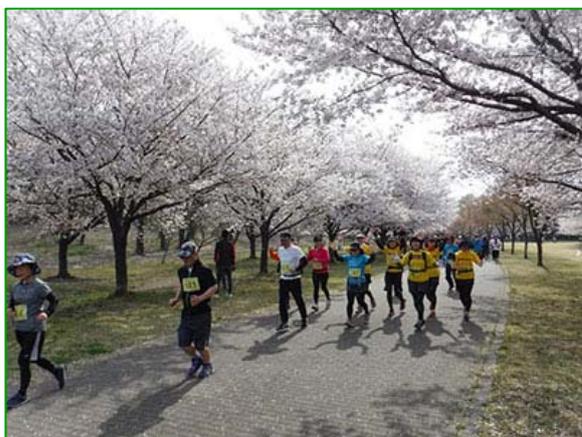
所在地 群馬県伊勢崎市西部地区

運営 会員数309名(平成31年3月現在)、予算規模810万円(2019年度)

有給職員 2名

特徴 「もっと気軽にEnjoy Sports!」を合言葉に、誰もが気軽にスポーツ参加の第一歩を踏み出せるよう、公園、河川、公共施設等においてランニング(かけっこ)、カヌー、ダンベル体操等を実施。運動能力に関係なく、小学生から高齢者までが参加しています。また、伊勢崎市からウォーキング教室を受託、毎月1回、6会場で同時開催するなど、他の活動にもスタッフを派遣、様々なフィールドで「スポーツで元気なまちづくり」をサポートしています。

連絡先 〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町3009-2
TEL 080-4887-9629(火曜～金曜14:00～19:00)
E-Mail isesakiseibusc@bk2.so-net.ne.jp
URL <https://wind.ap.teacup.com/seibusports/>





連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・パラリンピック・ムーブメント

i-PLAY TRUE リレー

～東京2020大会へ2020人のメッセージを届けよう！

スポーツ庁と日本アンチ・ドーピング機構（以下、「JADA」という。）では、アンチ・ドーピング活動の一環として、スポーツの価値を高め、スポーツの未来、スポーツを通じた未来を創るためのプロジェクト「i-PLAY TRUEリレー」を展開しています。

このプロジェクトでは、参加者からメッセージ・写真・動画を集め、それらを2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」という。）期間中に「アート化」してお披露目します。

オリンピック・パラリンピックをホストする国が、このような形でスポーツの価値・チカラを国内外から集め、アート化するの初めてのレガシープロジェクトとなります。

目標は、2020年までに2020人からメッセージを集めることです！ぜひ、この機会にスポーツの未来、スポーツを通じた未来と一緒に創りませんか？

●i-PLAY TRUEリレーとは

JADA のスローガン“ FAIR PRIDE (フェア・プライド)”で掲げている、「勝利を超える価値」を東京2020大会に向けて、世界中のみなさんと分かち合い、スポーツの価値を高め、スポーツの未来、スポーツを通じた未来を創るためのプロジェクトです。

みなさんが感じる「スポーツのチカラ／価値」を表したメッセージや写真を集め、東京2020大会期間中にアートやデジタル化など様々な形・場所でお披露目し、レガシーとしてつなぐプロジェクトとして2018年12月にスポーツ庁の鈴木大地長官により発表されました。

i-PLAY TRUEリレーホームページ

<https://playtrue2020-sp4t.jp/jp/iplaytrue/>



対象者

年齢・性別・国籍・スポーツ経験を問わず誰でも参加できます。

※団体でも、個人でも参加が可能です。

実施すると...

メッセージ、写真、動画をJADAに提出すると、東京2020大会期間中にそれらのメッセージ・写真・動画が繋ぎ合わされ、「アート」として展示される予定です。



●実施内容

総合型クラブの教室・イベント・研修会等のスポーツに関わる人々が集まる場などで、以下3つのアクション(のいずれか)を行い、その内容(ポスター・写真・動画)をJADAに提出します。

1. リレーするメッセージをポスターに書き込む

《ポスターに書き込むメッセージ内容》

- ・護りたい、未来につなげたいスポーツのチカラ
- ・東京2020大会で見たい、スポーツのいいところ
- ・スポーツの「いいなあ」と感じるどころ 等々



2. フィルターポーズで写真撮影

《フィルターポーズとは》

心の中にある「真実」、スポーツの中にある「真実」を映し出すポーズ

※実施者のSNS (Instagram、Facebook、Twitter) でもぜひ投稿・シェアをお願いします！

《ハッシュタグ》 #iplaytrue #playtrue2020



#メッセージ
#iplaytrue
#playtrue2020

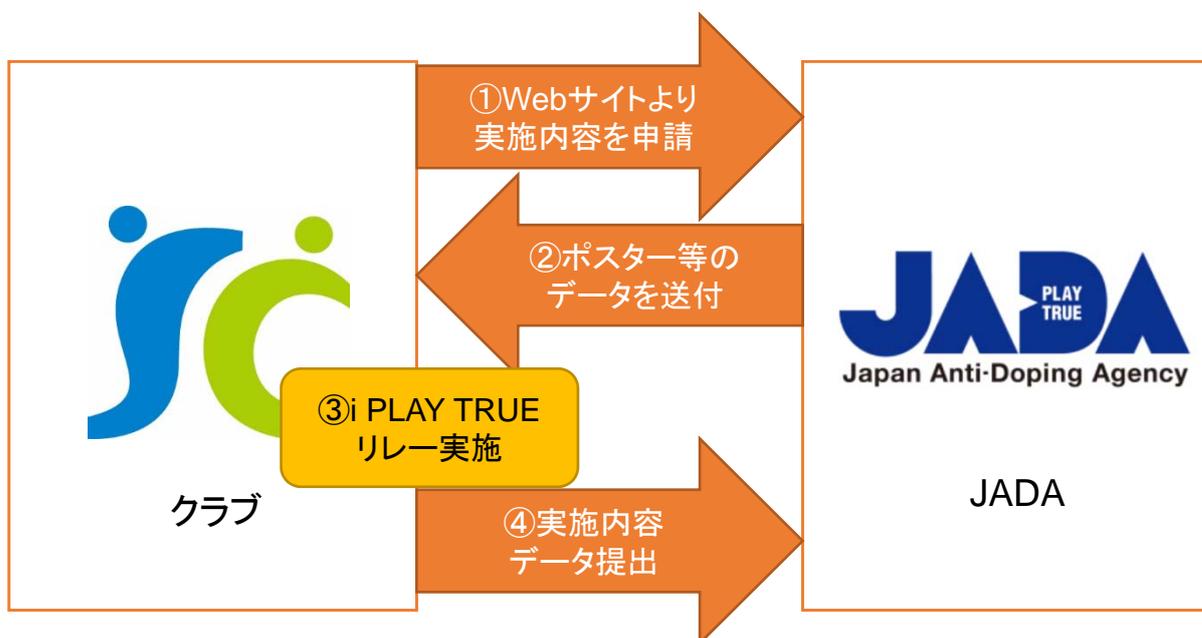
3. リレー動画を撮影

《動画内容》

好きなスポーツまたは、好きなアクションでバトンリレーしている動画 など



●実施申請手続きについて



※「i-PLAY TRUE リレー」実施申請フォームは、以下のホームページよりご確認ください。

https://www.playtruejapan.org/form/form_relay.html

●総合型クラブの日々の取組がレガシーとなる

「i-PLAY TRUEリレー」に参加することを通して、スポーツに日頃から親しんでいるみなさまが、スポーツのいいところやスポーツのチカラを改めて考えるよい機会になると思われます。

また、提出したポスターや写真・動画が東京2020大会期間中にアートとしてお披露目されることで、日本だけでなく、東京2020大会に来る世界中の人々への総合型クラブのアピールにつながる可能性もあります。

全国の総合型クラブが「i-PLAY TRUEリレー」に参加し、東京2020大会への機運を醸成することで、クラブのみなさんもより東京2020大会を身近に感じるきっかけになるのではないのでしょうか。

ぜひ、クラブのみなさんで、東京2020大会へメッセージを届けましょう！

●「i-PLAY TRUEリレー」に関するお問い合わせ先

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)

Mail: playtrue2020.info@playtruejapan.org





助成金情報

一般公募助成事業

[実施団体] (公財)ライフスポーツ財団

総合型地域スポーツクラブや地域で活動する団体で実施されている親子や幼少児を対象としたスポーツ事業(大会・教室等)に助成金を交付しています。

地域に根ざす活動として取り組まれており、誰でも参加できる事業が対象となります。

実施回数や参加人数によって金額が定められます。

詳細は以下のページをご参照ください。

<http://www.lsf.or.jp/josei>

高齢者福祉助成 (近畿 2府 4県限定)

[実施団体] (公財)大阪ガスグループ福祉財団

活力あふれる長寿社会を実現するため、高齢者を対象にした福祉活動や高齢者の社会参加を支援する活動など、「高齢社会における地域福祉づくり活動」に対して助成します。

※滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市の社会福祉協議会の推薦が必要

[申込期間] 2019年7月1日(月)～2019年8月30日(金)

申込書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、社会福祉協議会へ提出します。

http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/fukushi/jyosei/fukushi_detail.html



クラブアドバイザーも資質・技術の向上を目指しています!

クラブを運営されているみなさまに寄り添って活動をしているクラブアドバイザーは、資質と技能の向上のための研修を毎年受けています。その研修の様子をご紹介します!

クラブアドバイザーとは?

クラブアドバイザーは、総合型クラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしていけるよう、クラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスすることを目的に活動しています。日本スポーツ協会では、令和元年度は27道府県体育・スポーツ協会に27名のクラブアドバイザーを配置しています。

クラブアドバイザーミーティングとは?

日本スポーツ協会が配置しているクラブアドバイザー等を対象に、その資質と技能の向上を図ることを目的に実施しています。

今年度は、「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」、「中間支援組織の2021年度からの運用に向けて」をメインテーマに、5月30日(木)・31日(金)の日程で行われました。

1日目 5/30(木)

▼説明▼

- 「平成30年度スポーツ活動支援事業(総合型クラブの質的充実に向けた支援推進事業)」について
- 総合型クラブ登録・認証制度の検討状況について

説明者: 日本スポーツ協会 クラブ育成課職員

日本スポーツ協会職員から、日本スポーツ協会が昨年度受託し実施したスポーツ庁委託事業「平成30年度スポーツ活動支援事業(総合型クラブの質的充実に向けた支援推進事業)」において作成した報告書の概要について説明しました。

また、日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会としての「登録・認証制度原案(案)」の概要、制度運用までのスケジュール等について情報共有を行いました。

▼講演兼アイスブレイク▼

「一瞬で相手の心を引き付ける、プレゼンテーション力」
説明者：佐藤 美咲氏(株式会社 ボディチューン・パートナーズ)

クラブアドバイザーは、クラブ訪問等において、伝える力が特に重要視されることから、昨年度に引き続き「プレゼンテーションスキル」にスポットを当て、佐藤氏に講演いただきました。

講演では、相手を理解するためのソーシャルスタイル理論や相手の感情プロセスのほか、感情を踏まえたコミュニケーションとしてDESC法※について学びました。

＜参加者の感想(一部)＞

- 話し方、コミュニケーションの取り方を自身の中で整理することができた。
- 今後、話し方を工夫し、相手に伝えていけるようにしたい。

※DESC法：相手に言いづらいことを伝える際の技法の一つ。

客観的に事実を伝え(Describe)、
自分の意見を表現し(Express)、
事実・意見を踏まえた代替の提案をし(Suggest)、
提案の結果を可視化する(Consequence)こと。



2日目 5/31(金)

▼説明▼

- 登録・認証制度原案(案)における登録手続きに関する「事務局マニュアル」概要および登録申請書類と審査方法について
- 登録・認証制度原案(案)と中間支援組織の関係について

説明者：日本スポーツ協会 クラブ育成課職員

日本スポーツ協会職員から、登録・認証制度原案(案)における登録申請書類および登録手続きの流れについて説明したほか、平成30年度「スポーツ活動支援事業(総合型クラブの質的充実に向けた支援推進事業)」報告書において示された登録・認証制度と中間支援組織の関係について説明しました。

▼グループワーク▼

「登録申請書類(申請書類⑦. 総合型クラブの評価指標を用いた自クラブの自己点検・評価の結果)を基にクラブへの支援内容を考える」

登録・認証制度原案(案)において示された登録手続きには、登録を希望するクラブが登録申請を行う際に提出する書類の中に、「持続可能な総合型クラブの推進に向けた取組の指針と評価指標※」を用いた自己点検・評価の結果が含まれています。

この自己点検・評価の結果は、クラブ自身がこの結果を基に自クラブの運営状況の改善・充実につなげるために活用できるほか、中間支援組織が支援内容を検討する際に活用することもできると考えられます。

そこで、グループワークでは、「今後の総合型クラブへの支援を考える」をテーマに、まず各都道府県が現在行っている総合型クラブへの支援内容を共有した後、クラブから提出される自己点検・評価の結果を踏まえた今後の総合型クラブへの支援の在り方や内容について検討しました。各グループの発表では、今後の総合型クラブへの支援にあたり、「総合型クラブの認知度向上のための支援」、「総合型クラブと行政・企業等が連携するための支援」等に関する提案がなされたほか、「集合研修といった県内クラブ全体への包括的な支援ではなく、個々のクラブに対する個別の支援が特に必要となるのではないか」との意見も出されました。

今回参加者からいただいた意見は、今後日本スポーツ協会が登録・認証制度や中間支援組織を検討する際の参考とします。

※平成26年度に日本スポーツ協会が文部科学省から受託し、作成。詳細は日本スポーツ協会ホームページよりご覧いただけます。

<https://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1065.html>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

日本スポーツ協会事業概要パンフレット公開

日本スポーツ協会事業概要紹介パンフレット「スポーツと、望む未来へ。平成30年度事業概要」を公開しました。

事業概要パンフレットはこちら

https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/koho_kyanpen/doc/JSPO_outline2019.pdf

指導者資格情報

2019年10月1日付公認スポーツ指導者登録・更新手続きを開始します。

資格の取得および資格継続のために必要な手続きとなりますので、該当する方は期限までにお手続きいただきますようお願いいたします。

なお、該当の方には7月下旬に登録住所あてに登録手続き書類をお送りします。

(指導者マイページ保有者にはメールでもお知らせします。)

資格登録内容をご確認の上、登録料のお支払いをお願いいたします。

熱中症対策情報

暑いとき、屋内外のスポーツ活動で特に気をつけたいのが熱中症。

熱中症を予防することで、重症例や死亡事故を防ぐことができます。

「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」が6年ぶりに改訂されました。

実践に近い身近な情報も掲載していますので、ガイドブックを読んで、熱中症を予防しましょう！

スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック(デジタル版PDF)はこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html#guide01>

スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック改訂のポイントはこちら

https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/supoken/doc/heatstroke_leaflet201905.pdf

セミナー情報

ブロック別クラブネットワークアクション2019開催

【日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催します。

開催日についてはこちらから

※詳細は8月頃から随時掲載します。

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx>

幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会開催

日本スポーツ協会(日本スポーツ少年団)が平成26年度に作成した、幼児及びその保護者等を対象にした活動プログラム「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」の効果的な活用法を周知することを目的に、地域のスポーツ少年団関係者等を対象とした講習会を開催します。

開催日時・場所・申込方法等詳細については以下のURLを参照ください。

<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid1061.html>

2019年度ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト (J-STARプロジェクト)

J-STARプロジェクト エントリー受付【3期生】&PRイベント開催のお知らせ

2019年度J-STARプロジェクトのエントリー受付を6月17日(月)からスタートしています！

2019年度J-STARプロジェクトのチラシはこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp//Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R1/Jstar.pdf>

<エントリー方法・条件等>

J-STARプロジェクトホームページをご覧ください。

<https://www.j-star.info/>

※団体ごとで一括申し込いただく方法もございます。

皆さまのクラブの会員や関係者の方の中で、

「将来オリンピック・パラリンピックに出場してみたい人」

「いま取り組んでいる競技以外の競技もやってみたい人」など、何かにチャレンジしたい中・高校生、障がい者の方が身近にいらっしゃいましたら是非ご参加を呼び掛けていただければと思います。

誰しにもチャンスはあります。

「道はひとつじゃない 新たな競技へチャレンジ！」

たくさんのご応募お待ちしております！

また、J-STARプロジェクトに関するPRイベントを下記の通り開催いたしますので、お近くの方はぜひご参加ください。

イベント名: J-STAR SPORTS FESTIVAL 2019

日時: 8月13日(火)10:00~16:00(予定)

場所: 静岡県小笠山総合運動公園エコパ(最寄駅: JR愛野駅)

内容: 中・高校生ライジングスター決定戦、特別講演(谷本道哉氏)、
トークショー(室伏由佳氏・杉本美香氏・廣瀬誠氏・北澤豪氏)、ミニ運動会、J-STAR競技体験、
ジュニアアスリートのための栄養講座など

★参加者の方に抽選でスペシャルプレゼントもご用意！！

※公認スポーツ指導者資格の更新研修の対象イベント

イベントの詳細(チラシ)はこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R1/JstarFes.pdf>

【本件に関する問合せ先】

日本スポーツ協会 国体推進部 競技支援課

Eメール: kyougi@japan-sports.or.jp

TEL: 03-6910-5809 FAX: 03-6910-5820

フェアプレイで日本を元気に

7月11日(木)、東京都港区立御田小学校にて今年度第1回目の“フェアプレイスクール”を開催しました！

フェアプレイスクールとは、世界で活躍した元トップアスリートが、子どもたちにフェアプレーの精神や行動を伝えるため、全国の小中学校・特別支援学校に訪問しフェアプレーについての講義とスポーツ体験授業を行うものです。

当日は元競泳選手でオリンピックメダリストの星奈津美さんを講師として実施。同校4年生59人が参加し、一緒にフェアプレーを考え、実際にフェアプレーを体感する実習を行いました。



● 当日の詳細 → <https://www.facebook.com/JSPO.Association/posts/2344309218958890>

● JSPOの「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンはコチラ

<https://www.japan-sports.or.jp/fair/>

※今年度のフェアプレイスクールは、今回を含め計10校を全国各地で開催予定です。

ラグビーワールドカップ2019™日本大会情報

アジアで初、ラグビー伝統国以外で初となるラグビーワールドカップが、この日本で開催されます。世界最高峰のラグビーをぜひお楽しみください。

開催期間 2019年9月20日(金)～11月2日(土)
参加チーム 20チーム (下表をご参照ください。)
試合形式 プール戦 5チーム×4プール(プール内総当たり戦):40試合
決勝トーナメント 準々決勝/準決勝/3位決定戦/決勝:8試合
プール表

| プールA | プールB | プールC | プールD |
|---|--|--|---|
|  アイルランド |  ニュージーランド |  イングランド |  オーストラリア |
|  スコットランド |  南アフリカ |  フランス |  ウェールズ |
|  日本 |  イタリア |  アルゼンチン |  ジョージア |
|  ロシア |  ナミビア |  アメリカ |  フィジー |
|  サモア |  カナダ |  トンガ |  ウルグアイ |

試合会場 日本全国12会場
開催都市 札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、東京都、神奈川県・横浜市、静岡県、愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、神戸市、福岡県・福岡市、熊本県・熊本市、大分県

大会の詳細はこちら (試合日程や大会の最新情報をご覧ください。)

<https://www.rugbyworldcup.com/>

チケットの情報はこちら

<https://tickets.rugbyworldcup.com>

スポーツ庁からのお知らせ

スポーツ共創人材育成ワークショップ合宿2019

スポーツ庁委託事業「2019年度スポーツ人口拡大に向けた官民連携プロジェクト・新たなアプローチ展開」の一環として開催される「スポーツ共創人材育成ワークショップ合宿2019」に関するご案内です。

スポーツ庁では平成29年度より、自分たちのスポーツを自分たちでつくる「スポーツ共創」という取り組みを行っています。

これは「する、みる、ささえる」というスポーツの軸に「つくる」という軸を加えることで、親しみやすい新たなスポーツを生み出し、スポーツ無関心層が興味を持ち、実施可能なスポーツの選択肢を広げ、スポーツ人口の拡大を図ることを目的としています。こうした「スポーツ共創」活動を自分たちの場で実践する人材を増やすためのワークショップが開催されます。

今回は特に、スポーツ共創の先導をし、学校の授業や運動家・地域イベント等を設計、運営する人が対象となっておりますので、ご興味がある方は、ぜひお申込みください。

【スポーツ共創ワークショップ合宿】

日 時： 2019年9月14日(土)～16日(祝) ※合宿2泊3日間

場 所： お茶の水女子大学附属小学校

定 員： 40名程度(定員に達した場合、参加者の選考を行います)

参加費： 無料(ただし、交通費等は自己負担となります)

主 催： 一般社団法人 運動会協会

協 力： 未来の体育を構想するプロジェクト

特設WEBサイト

<https://sites.google.com/view/2019sportskyoso/>

チラシPDF

<https://sites.google.com/view/2019sportskyoso/home/chirasi>

お問合せ先

<https://sites.google.com/view/2019sportskyoso/home/otoiawase?authuser=0>

※また、直近では8月3日(土)にも松本大学でスポーツ共創ワークショップが開催されます。

詳細は以下特設サイトをご覧ください。

特設WEBサイト <https://sites.google.com/view/yugakujiyuku20>